

## (2) 都市情報の収集・整理

都市情報として、「立地適正化計画策定の手引き」に記載される「都市の情報」を基本とした上で、本町で考慮すべき都市情報を以下に示します。

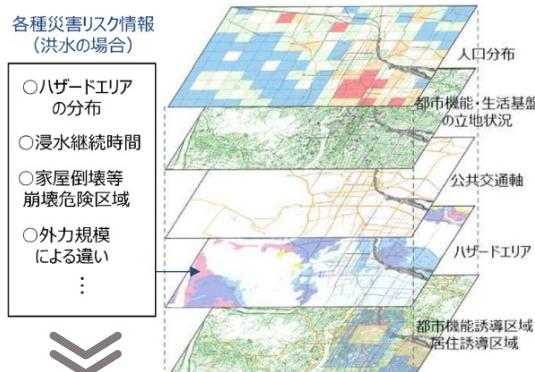
表 災害リスクの高い地区を抽出するための都市情報一覧

都市情報	災害リスクの高い地区を抽出するため、把握すべき内容
都市機能施設	災害時に人的被害のリスクが極めて高い施設
建築物（用途）	災害が発生した際に、人的被害のリスクが高い建築物
建築物（構造）	災害が発生した際に、倒壊等の可能性が高い建築物
建築物（階数）	人的被害のリスクを低減させる建築物
広域避難場所	町が指定する、災害が発生した際、一時的に避難するための屋外の場所
指定緊急避難場所	町が指定する、災害が発生し、又は発生する恐れがある場合にその危険から逃れるための場所
指定避難所	町が指定する、災害の危険性があり避難した住民等を災害の危険性がなくなるまで必要な期間滞在させ、または災害により家に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させることを目的とした施設
緊急輸送道路	災害直後に避難・救助をはじめ、物資供給等の応急活動のために、緊急車両の通行を確保すべき道路

## (3) 災害リスクの高い地区・施設の抽出方法

「(1) . 災害ハザード情報の収集・整理」及び「(2) . 都市情報の収集・整理」を踏まえ、本町で留意すべき災害ハザード情報と都市情報を重ね合わせることで災害リスクの高い地区・施設の抽出を行います。

災害ハザード情報  
と都市情報  
の重ね合わせ



災害リスクの見える化  
【災害リスクの高い  
地区・施設】

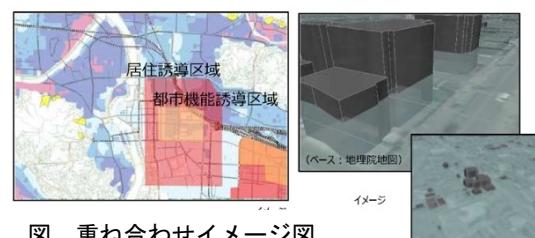


図 重ね合わせイメージ図

出典：国土交通省

#### (4) 災害リスク分析の考え方

各災害リスクの分析にあたっては、以下に示す考え方に基づき整理を行います。

##### 1) 機能不全のおそれの有無（都市機能施設）

「水害の被害指標分析の手引（H25 試行版）」（平成 25 年 7 月 国土交通省）の浸水深と医療・社会福祉施設等の機能低下による被害のリスクの考え方を基に、浸水深 30cm 以上で機能不全のおそれがあるとします。

表 浸水深と医療施設の機能低下との関係

浸水深 30cm	自動車（救急車）の走行困難、災害時要援護者の避難が困難な水位
浸水深 50cm	徒歩による移動困難、床上浸水
浸水深 70cm	コンセントに浸水し停電（医療用電子機器等の使用困難）

##### 2) 建物倒壊のおそれの有無（建築物の構造）

家屋倒壊等氾濫想定区域は、氾濫流及び河岸侵食の 2 種類に分類され、「水害ハザードマップ作成の手引き」（令和 5 年 5 月 国土交通省）に示されている定義に基づき、建物倒壊のおそれの有無を以下のように設定します。

表 建物倒壊の発生する可能性のある区域

氾濫流	木造建物は倒壊のおそれあり（木造家屋の倒壊のおそれがある区域）
河岸侵食	木造に関わらず、全ての建物が倒壊のおそれあり（木造・非木造の家屋倒壊のおそれがある区域）

##### 3) 垂直避難の可否（建築物の階数）

「水害の被害指標分析の手引（H25 試行版）」（平成 25 年 7 月 国土交通省）の浸水深と人的被害のリスクの考え方を基に、垂直避難の可否を以下のように設定します。

表 浸水深と垂直避難の基準

浸水深	垂直避難の可否
0.5m ~ 3.2m	1 階建ての建築物は、垂直避難困難。（2 階床下に相当）
3.2m ~ 5.9m	2 階建て以下の建築物は、垂直避難困難。（一般的な家屋の 2 階が水没する深さ）
5.9m ~ 8.6m	3 階建て以下の建築物は、垂直避難困難。（一般的な家屋の 3 階が水没する深さ）
8.6m 以上	全ての建築物は、垂直避難困難

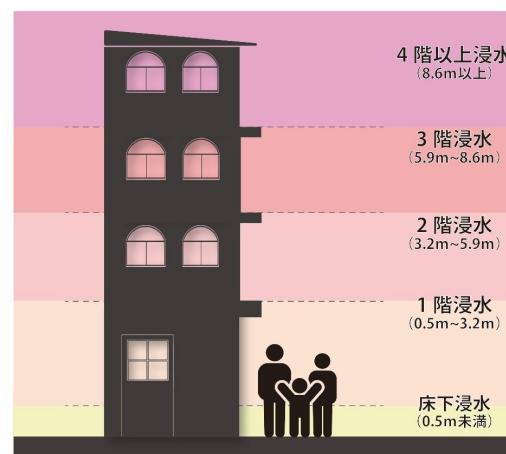


図 浸水のイメージ

#### 4) 避難経路の可否（緊急輸送道路）

発災した際に、集落地等が陸の孤島とならないように、緊急輸送道路が配置されているか、または緊急車両等が通行可能なルートもしくは迂回ルートが複数確保されているかによって、避難経路の可否を設定します。

#### (5) 災害リスクの高い地区・施設の検証内容

次項で本町の災害リスクを「機能不全のおそれの有無」「建物倒壊のおそれの有無」「垂直避難の可否」「避難経路の可否」という4つの点から検証します。

このため、4つの災害リスクについて検証するため、災害リスク分析に対する「検証の視点」とこの検証に使用するハザード・都市情報の重ね合わせを、以下に整理しました。

表 検証内容

災害リスク分析	「検証内容」と「ハザード・都市情報」	
(1) 機能不全のおそれの有無	検証の視点	災害発生により病院機能が低下し、適切な災害医療が受けられない可能性が高い地区
	重ね合わせ	1) 浸水想定区域（想定最大規模）×医療施設 2) 土砂災害（特別）警戒区域×医療施設
	検証の視点	指定避難所等が被災することによって避難の機能不全になる可能性がある施設
	重ね合わせ	3) 浸水想定区域（想定最大規模）×広域避難場所・指定緊急避難場所・指定避難所 4) 土砂災害（特別）警戒区域×広域避難場所・指定緊急避難場所・指定避難所
(2) 建物倒壊のおそれの有無	検証の視点	建物が土砂災害に巻き込まれる可能性が高い地区
	重ね合わせ	1) 土砂災害（特別）警戒区域×建物用途
	検証の視点	建物（木造家屋）の安全性が確保できない可能性が高い地区
	重ね合わせ	2) 家屋倒壊等氾濫想定区域（想定最大規模_氾濫流）×建物構造
	検証の視点	建物の安全性が確保できない可能性が高い地区
(3) 垂直避難の可否	重ね合わせ	3) 家屋倒壊等氾濫想定区域（想定最大規模_河岸侵食）×建物分布
	検証の視点	垂直避難で「命を守る行動」が難しい地区
	重ね合わせ	1) 浸水想定区域（想定最大規模）×建物階数 2) 浸水想定区域（ため池）×建物階数
	検証の視点	要配慮利用者施設で垂直避難が困難となる可能性が高い地区
	重ね合わせ	3) 浸水想定区域（想定最大規模）×要配慮者利用施設
(4) 避難経路の可否	検証の視点	災害発生時避難施設へ避難者が安全に避難できない可能性が高い地区
	重ね合わせ	1) 浸水想定区域（想定最大規模）×アンダーパス 2) 土砂災害（特別）警戒区域×緊急輸送道路